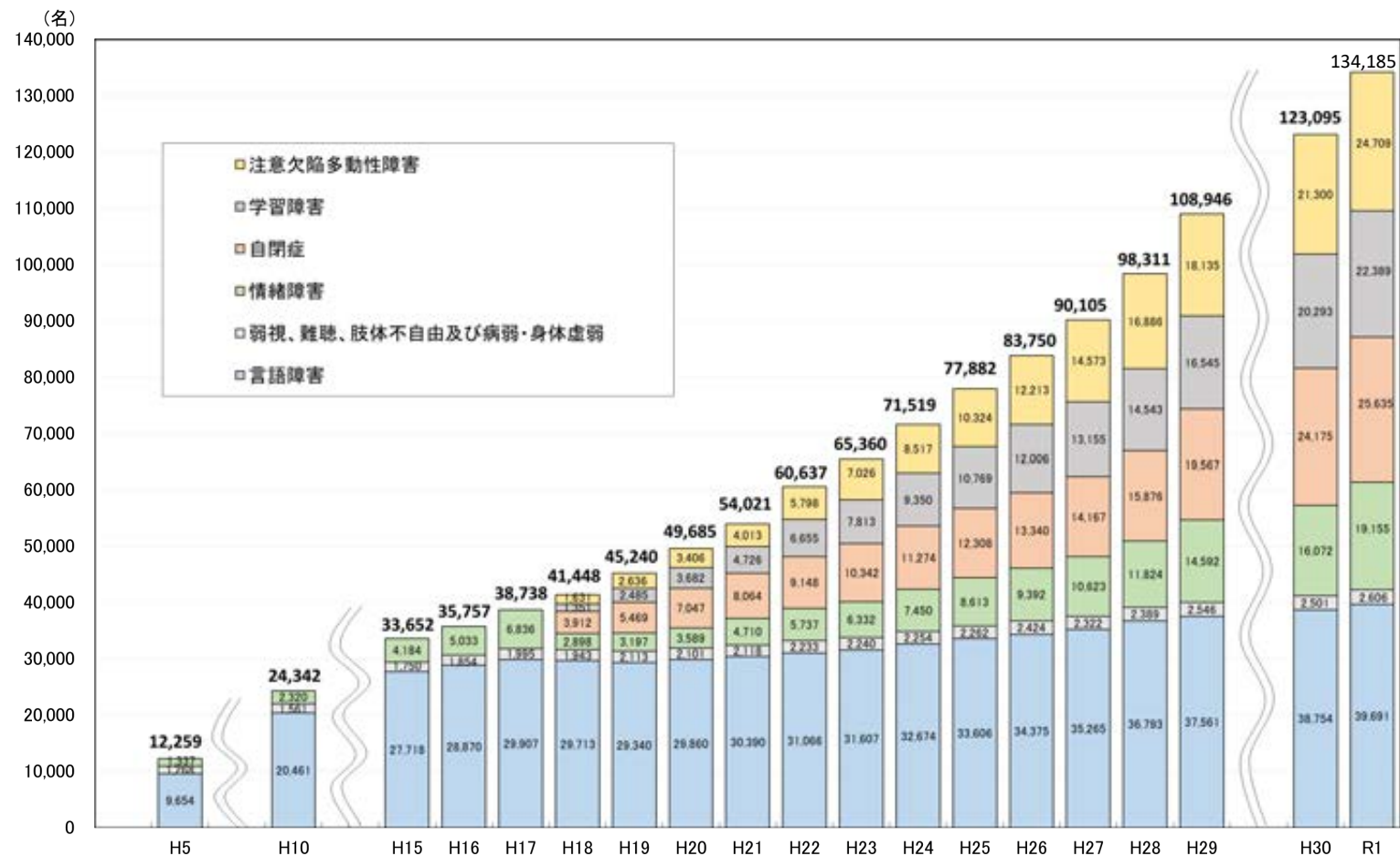

資料3－1 バックデータ集

通級による指導を受けている児童生徒数の推移（各年度5月1日現在）



※平成30年度から、国立・私立学校を含めて調査。

※高等学校における通級による指導は平成30年度開始であることから、高等学校については平成30年度から計上。

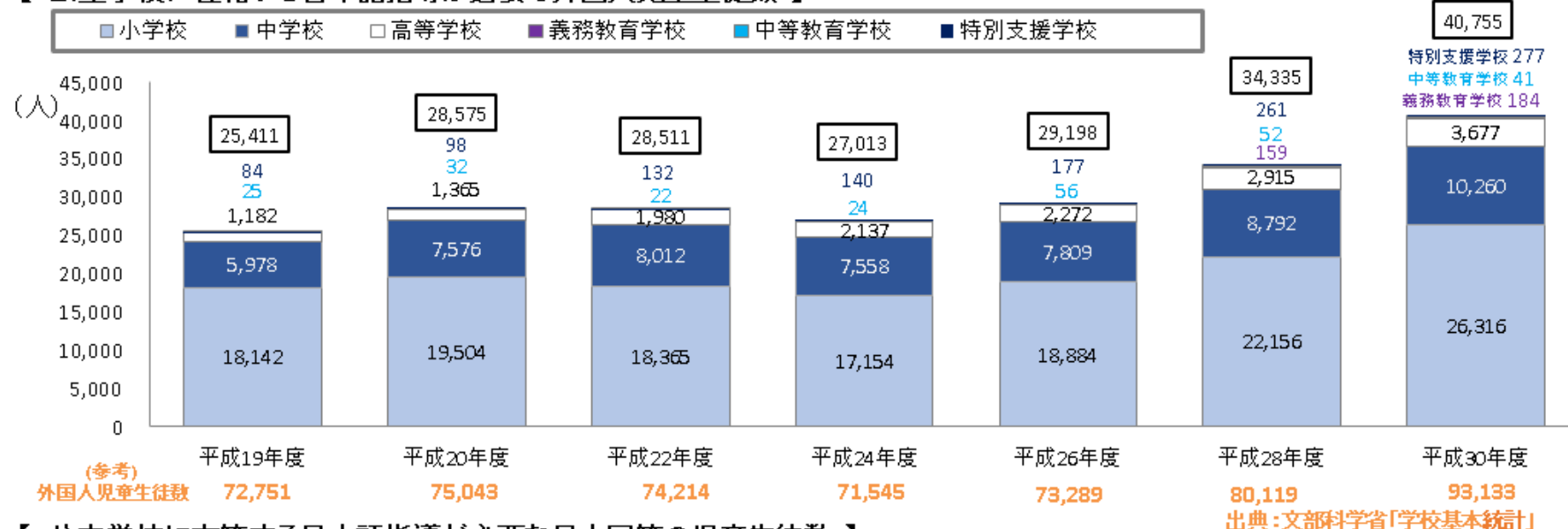
（出典）文部科学省「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）答申関連資料集

日本語指導が必要な児童生徒の在籍状況

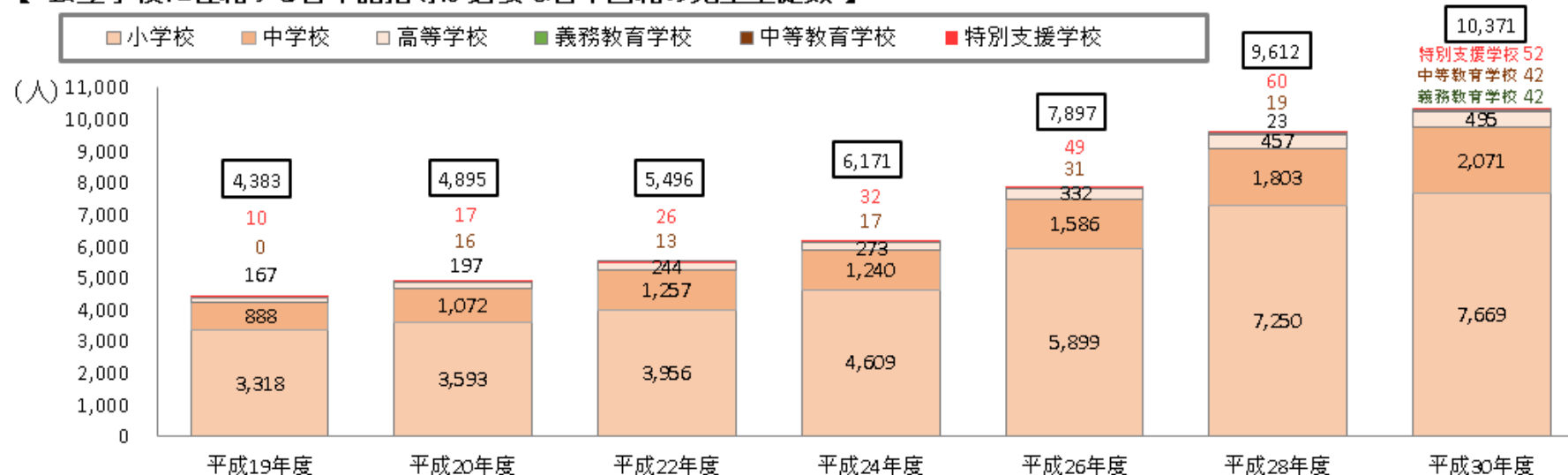
出典：文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査（平成30年度）」

- ① 公立学校に在籍する外国人児童生徒の約4割が日本語指導を必要としており、増加傾向。
- ② 日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒も近年急増している。

【公立学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数】

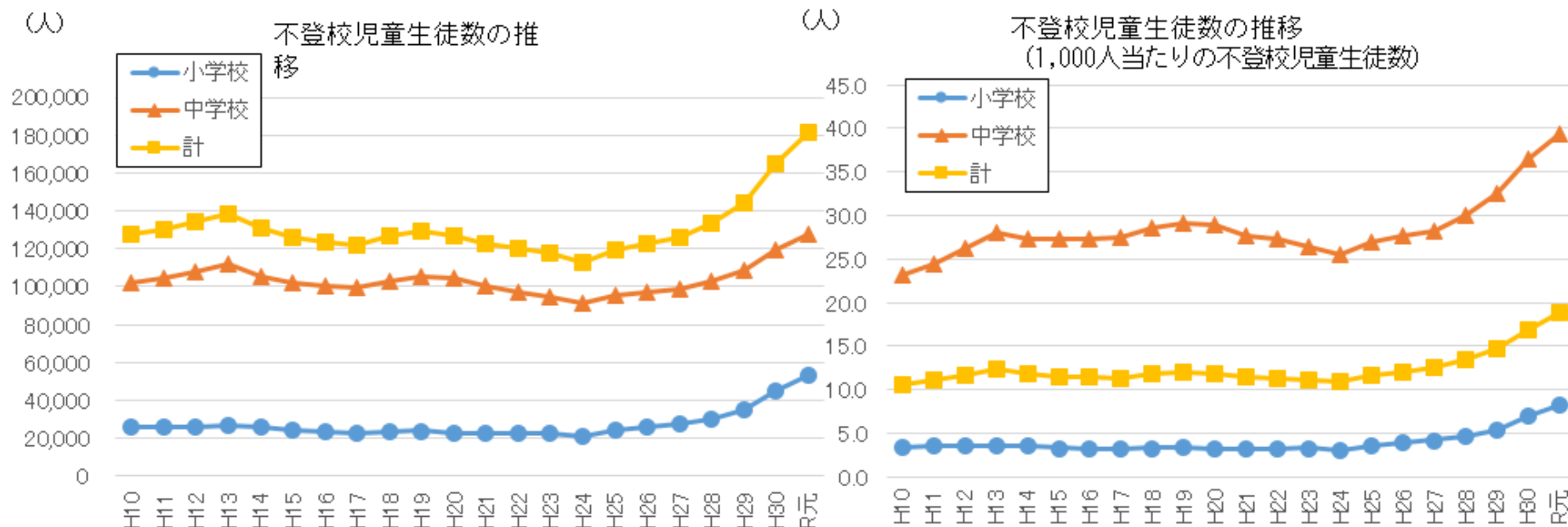


【公立学校に在籍する日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数】



小・中学校における不登校の状況について

小・中学校における不登校児童生徒数は181,272人（前年度164,528人）であり、1,000人当たりの不登校児童生徒数は18.8人（前年度16.9人）。1,000人当たりの不登校児童生徒数は、平成10年度以降、最多となっている。



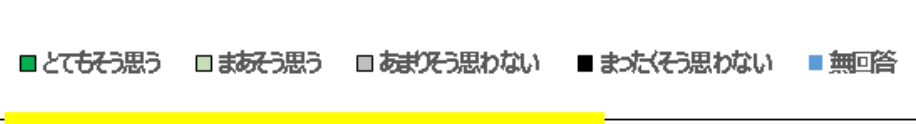
不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
小学校	26,017	26,047	26,373	26,511	25,869	24,077	23,318	22,709	23,825	23,927	22,652	22,327	22,463	22,622	21,243	24,175	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350
	3.4	3.5	3.6	3.6	3.6	3.3	3.2	3.2	3.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.3	3.1	3.6	3.9	4.2	4.7	5.4	7.0	8.3
中学校	101,675	104,180	107,913	112,211	105,383	102,149	100,040	99,578	103,069	105,328	104,153	100,105	97,428	94,836	91,446	95,442	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922
	23.2	24.5	26.3	28.1	27.3	27.3	27.3	27.5	28.6	29.1	28.9	27.7	27.3	26.4	25.6	26.9	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4
計	127,692	130,227	134,286	138,722	131,252	126,226	123,358	122,287	126,894	129,255	126,805	122,432	119,891	117,458	112,689	119,617	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272
	10.6	11.1	11.7	12.3	11.8	11.5	11.4	11.3	11.8	12.0	11.8	11.5	11.3	11.2	10.9	11.7	12.1	12.6	13.5	14.7	16.9	18.8

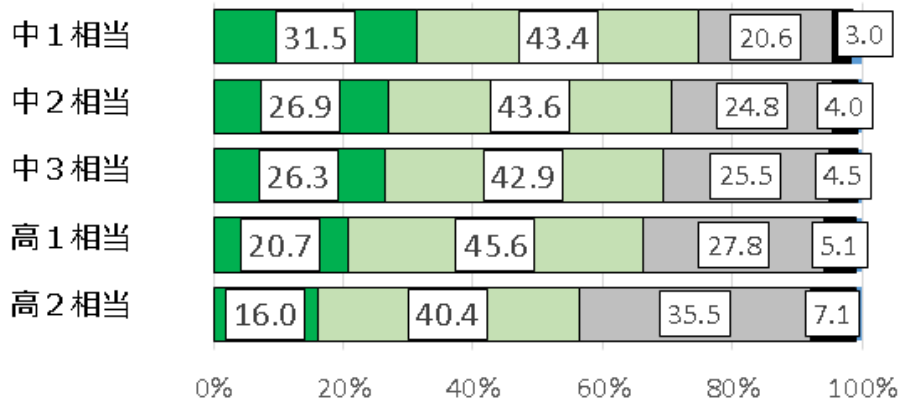
※平成10年度調査より不登校児童生徒として調査を行っている。

学校生活の満足度が徐々に低下していく子供たち

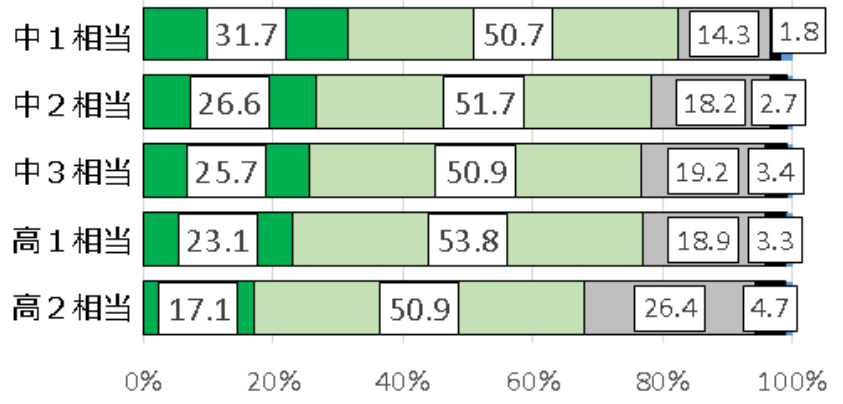
学校での学び・授業の満足度・理解度については、学年が上がるとともに低下傾向。



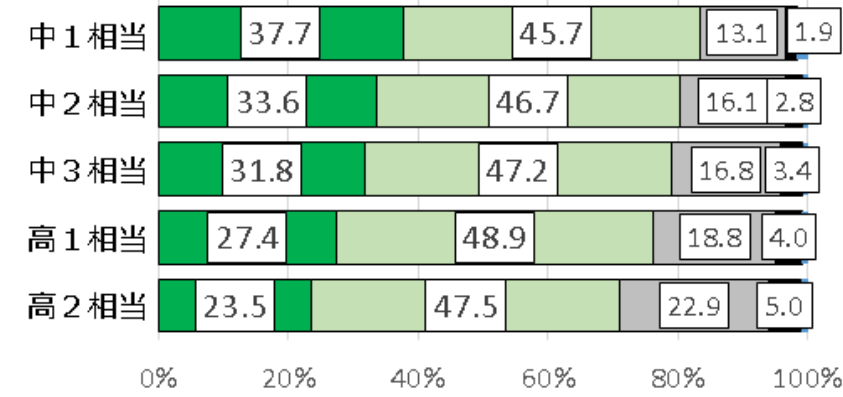
楽しいと思える授業がたくさんある



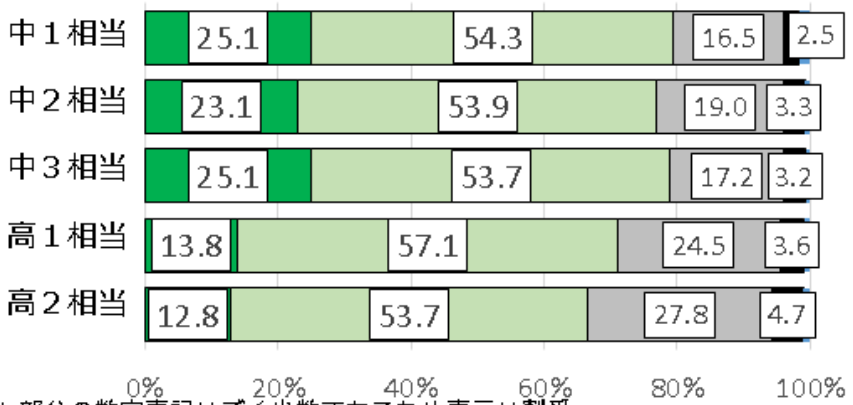
ためになると思える授業がたくさんある



学校の勉強は将来役に立つと思う

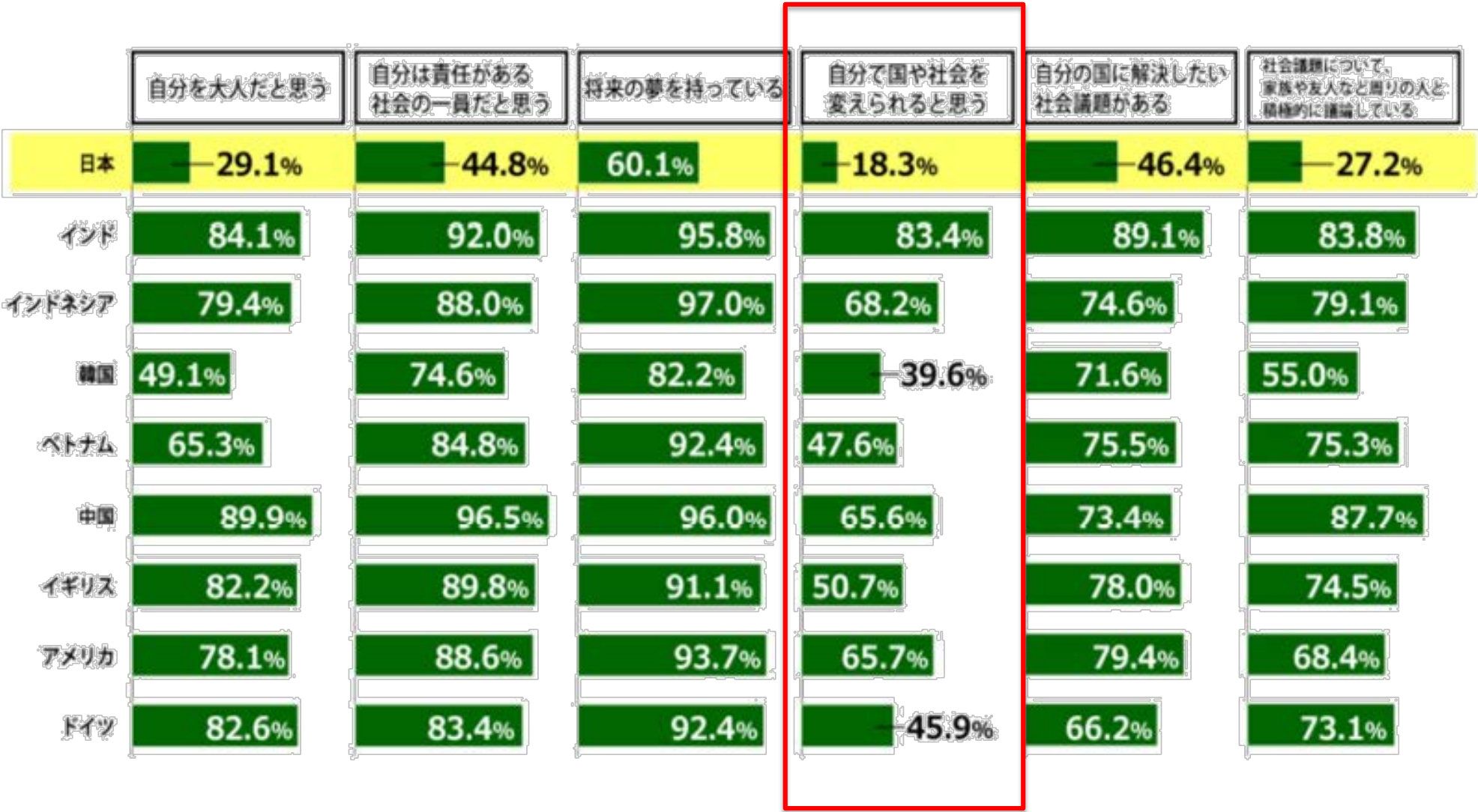


授業の内容をよく理解できている



※「無回答」部分の数字表記はごく少数であるため表示は割合
出典：文部科学省「第17回21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」（令和元年8月）

自分では国や社会を変えられないと思っている日本の18歳

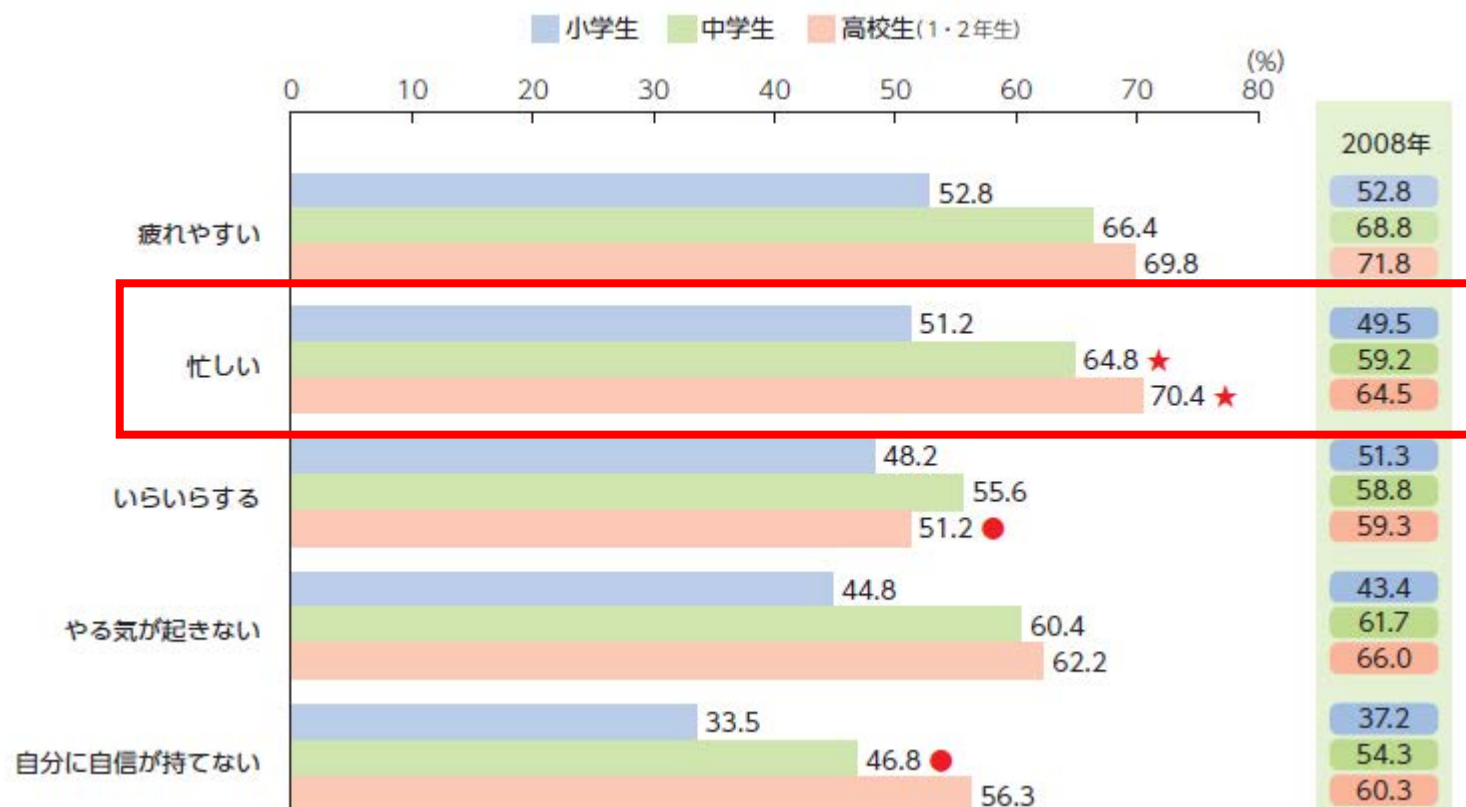


※ 日本財団「18歳意識調査」第20回-社会や国に対する意識調査-』要約版」(2019年11月30日)をもとに作成

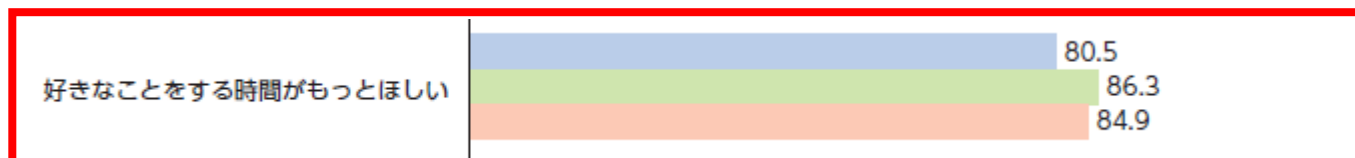
「忙しい」「好きなことをする時間がもっとほしい」と感じている子供たち



あなたは次のように感じることはありますか。



あなた自身について、次のことはどれくらいあてはまりますか。



※第1回調査（2008年）と今回調査（2013年）で5ポイント以上増加したのものには★を、5ポイント以上減少したものには●

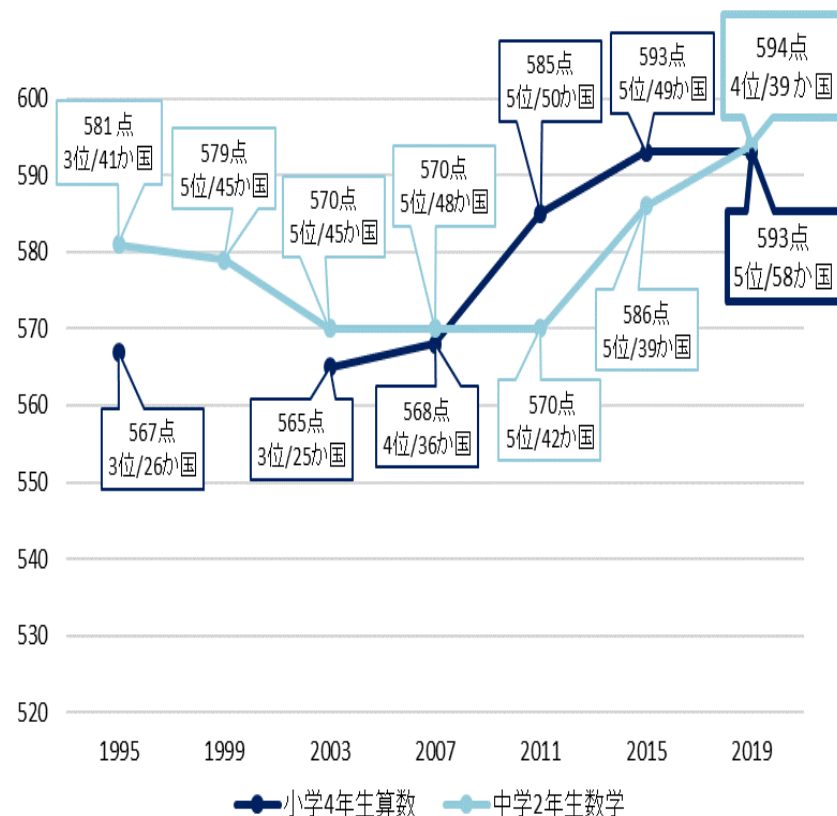
出典：ベネッセ総合教育研究所第2回 放課後の生活時間調査－子どもたちの時間の使い方〔意識と実態〕速報版[2013]

算数・数学や理科の学力は国際トップレベル

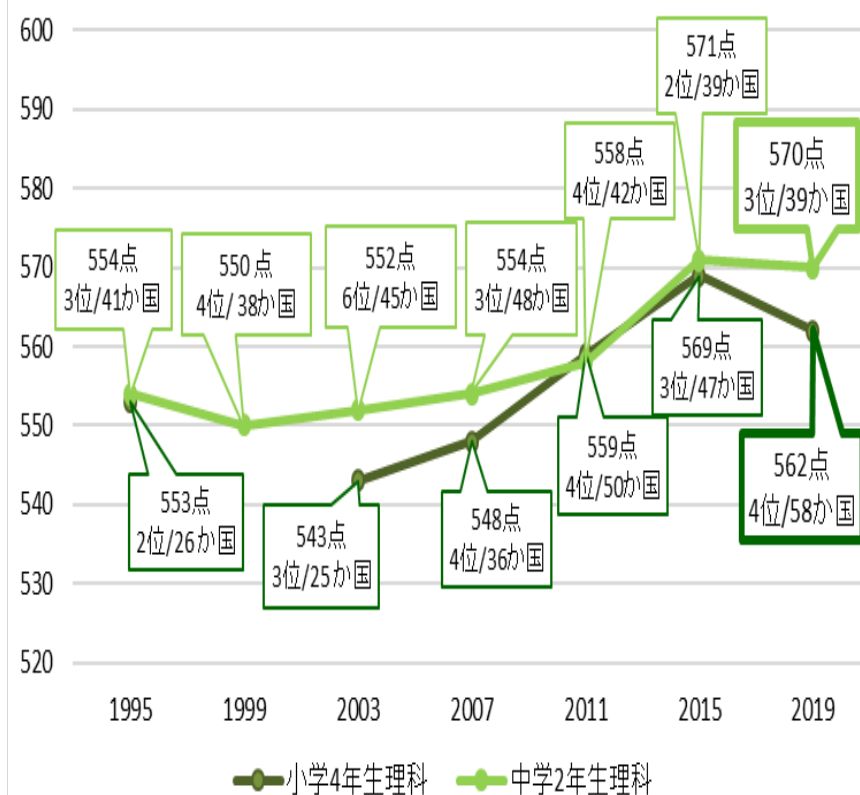
【平均得点の推移】

※小学4年生は1999年調査実施せず

算数・数学



理科



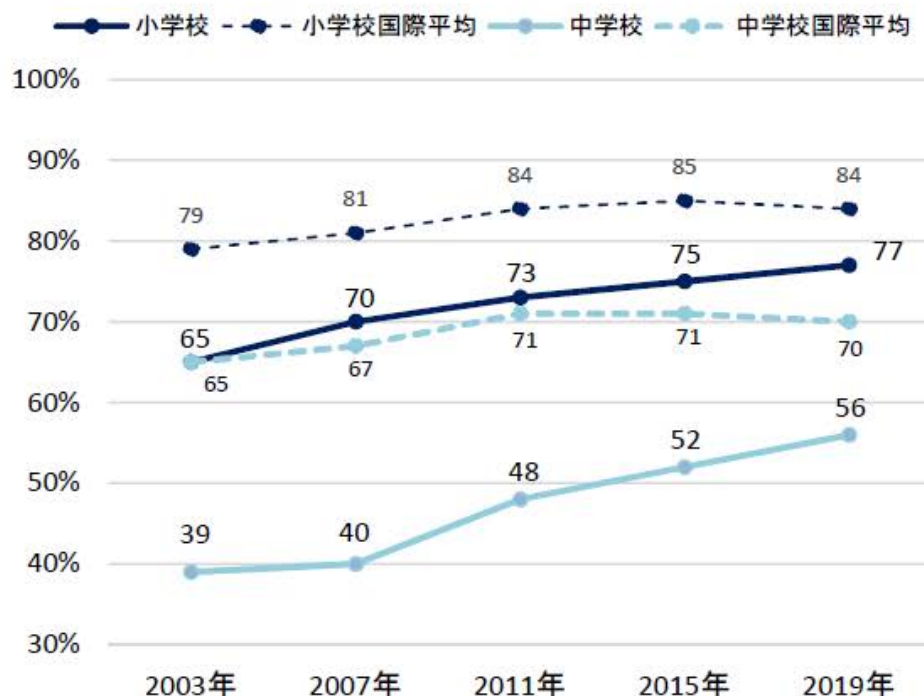
※国際平均については、調査参加国・地域が毎回異なる点に留意する必要がある。

※質問紙調査は1995年から実施されているが、項目の変化等により経年で比較できるのは2003年以降の調査結果になる。

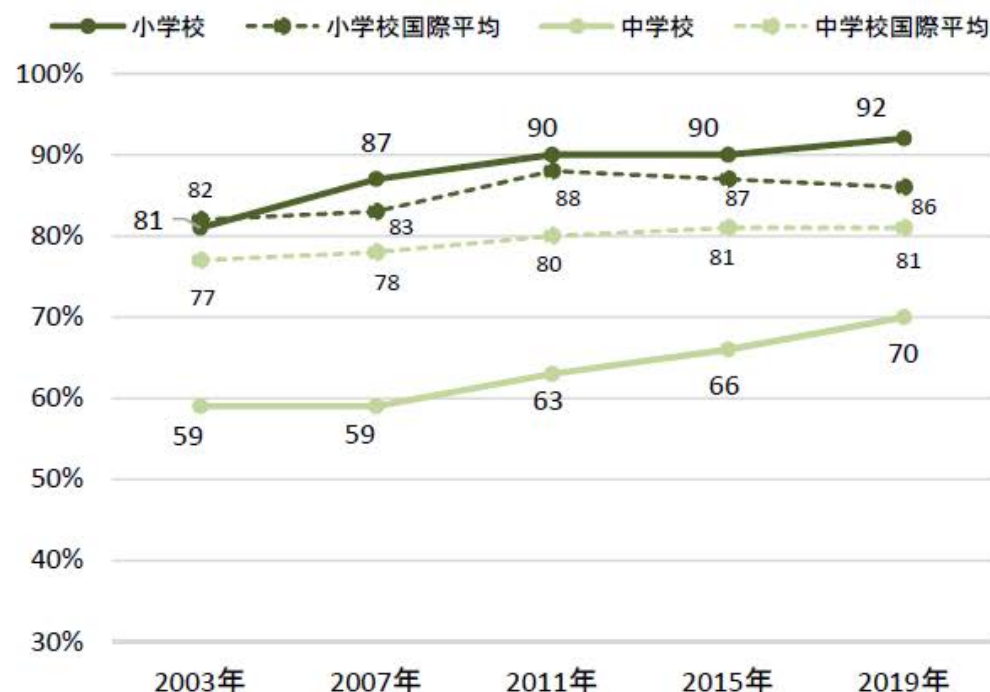
「算数・数学の勉強は楽しい」「理科の勉強は楽しい」と答えた児童生徒の割合の推移

小学校・中学校いずれも、算数・数学、理科ともに、算数・数学、理科の「勉強は楽しい」と答えた児童生徒の割合は増加している。小学校理科について「勉強は楽しい」と答えた児童の割合は、引き続き国際平均を上回っているが、小学校算数、中学校数学及び中学校理科について「勉強は楽しい」と答えた児童生徒の割合は、国際平均を下回っている。

算数・数学の勉強は楽しい



理科の勉強は楽しい



※数値は「強く思う」「そう思う」と回答した児童生徒の小数点第1位までの割合を合計し、さらにその小数点第1位を四捨五入したもの。

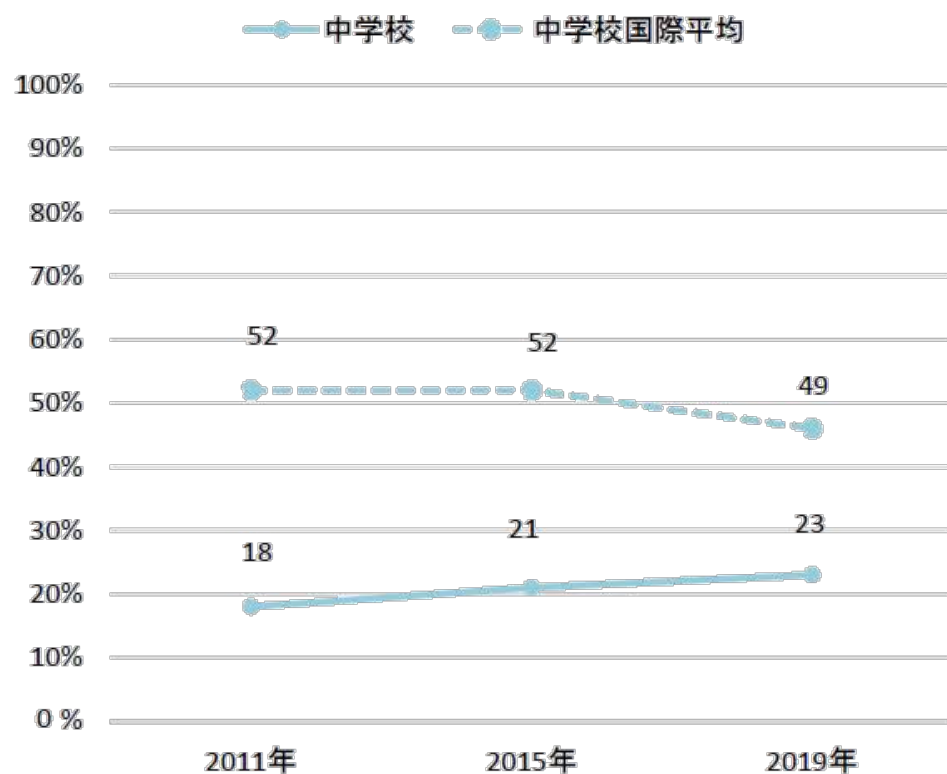
※国際平均については、調査参加国・地域が毎回異なる点に留意する必要がある。

※質問紙調査は1995年から実施されているが、項目の変化等により経年で比較できるのは2003年以降の調査結果になる。

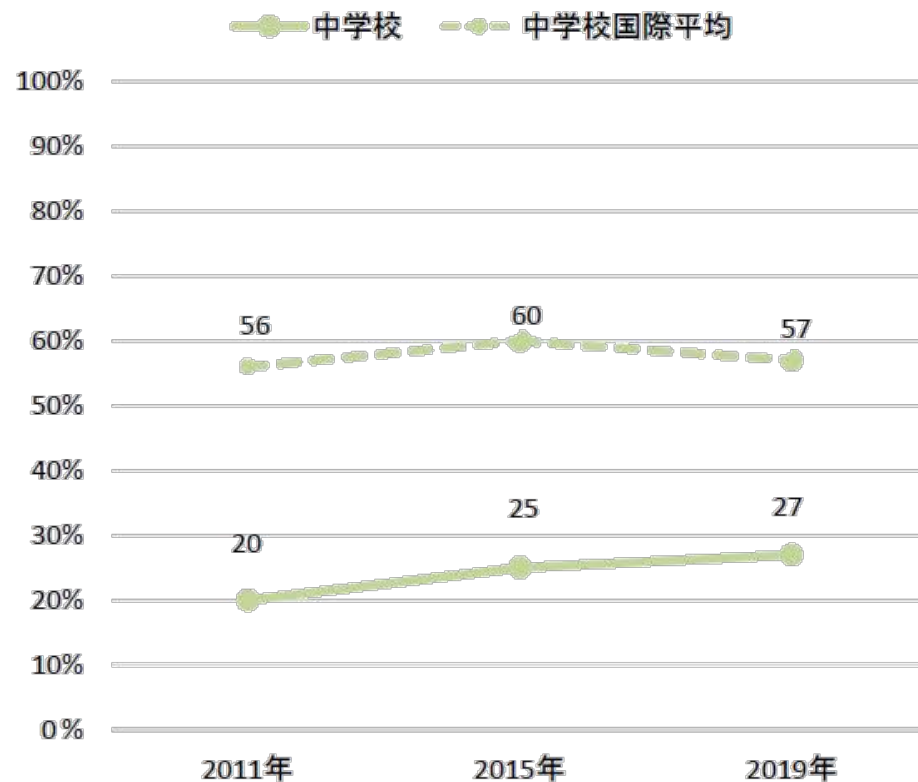
(出典) 国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS2019) のポイント (令和2年文部科学省・国立教育政策研究所)

数学や理科を使うことが含まれる職業を希望する子供は少ない

数学を使うことが含まれる職業につきたい



理科を使うことが含まれる職業につきたい



※数値は「強くそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒の小数点第1位までの割合を合計し、さらにその小数点第1位を四捨五入したもの。

※国際平均については、調査参加国・地域が毎回異なる点に留意する必要がある。

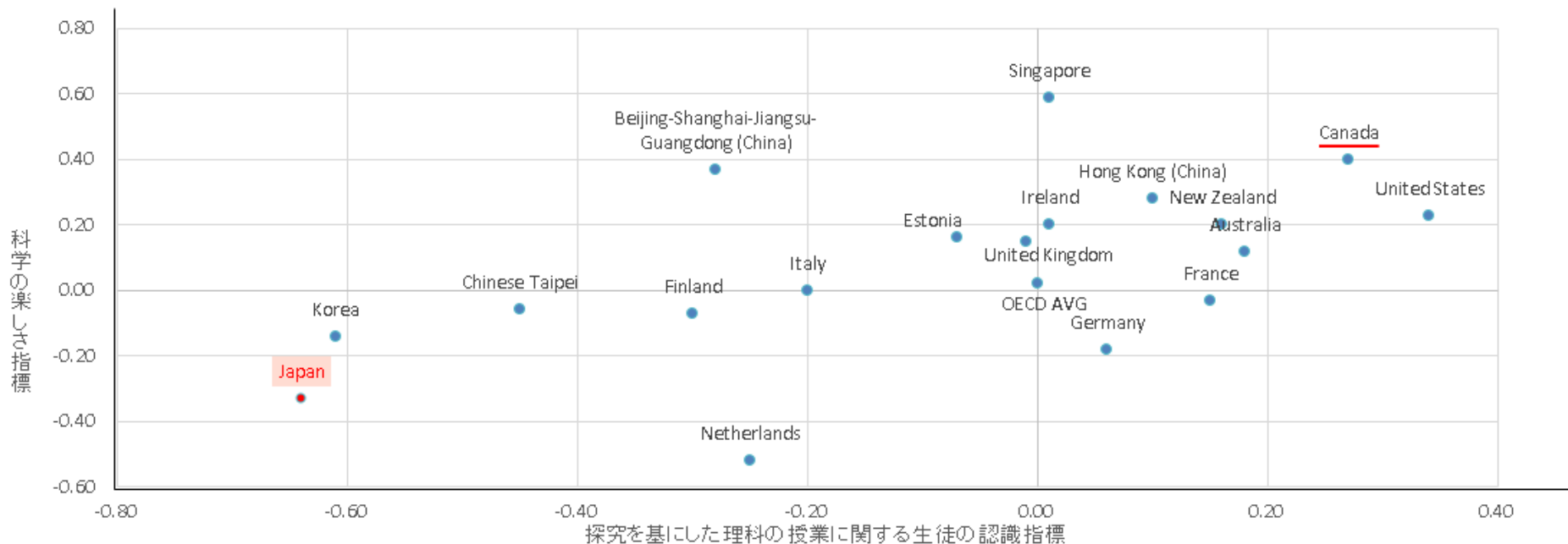
※質問紙調査は1995年から実施されているが、項目の変化等により経年で比較できるのは2011年以降の調査結果になる。

(出典) 国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS2019) のポイント (令和2年文部科学省・国立教育政策研究所)

探究を基にした理科の授業を行っている国ほど、生徒が科学の楽しさを感じる傾向

「科学の楽しさ」×「探究を基にした授業」

- PISA2015調査の結果をもとに、「科学の楽しさ指標」を縦軸に、「探究を基にした理科の授業に関する生徒の認識指標」を横軸に各国の状況を図示。
- 「科学の楽しさ指標」と「探究を基にした理科の授業に関する生徒の認識指標」を両立しているのはカナダ。



※「科学の楽しさ指標」

生徒質問調査で「あなたは、次の項目についてどの程度そうだと思いますか」と尋ね、それらの項目の肯定的回答をもとに「科学の楽しさ指標」を作成。「科学の楽しさ指標」は、その値が大きいほど、生徒が科学について知識を得たり楽しんで行ったりしていることを意味している。

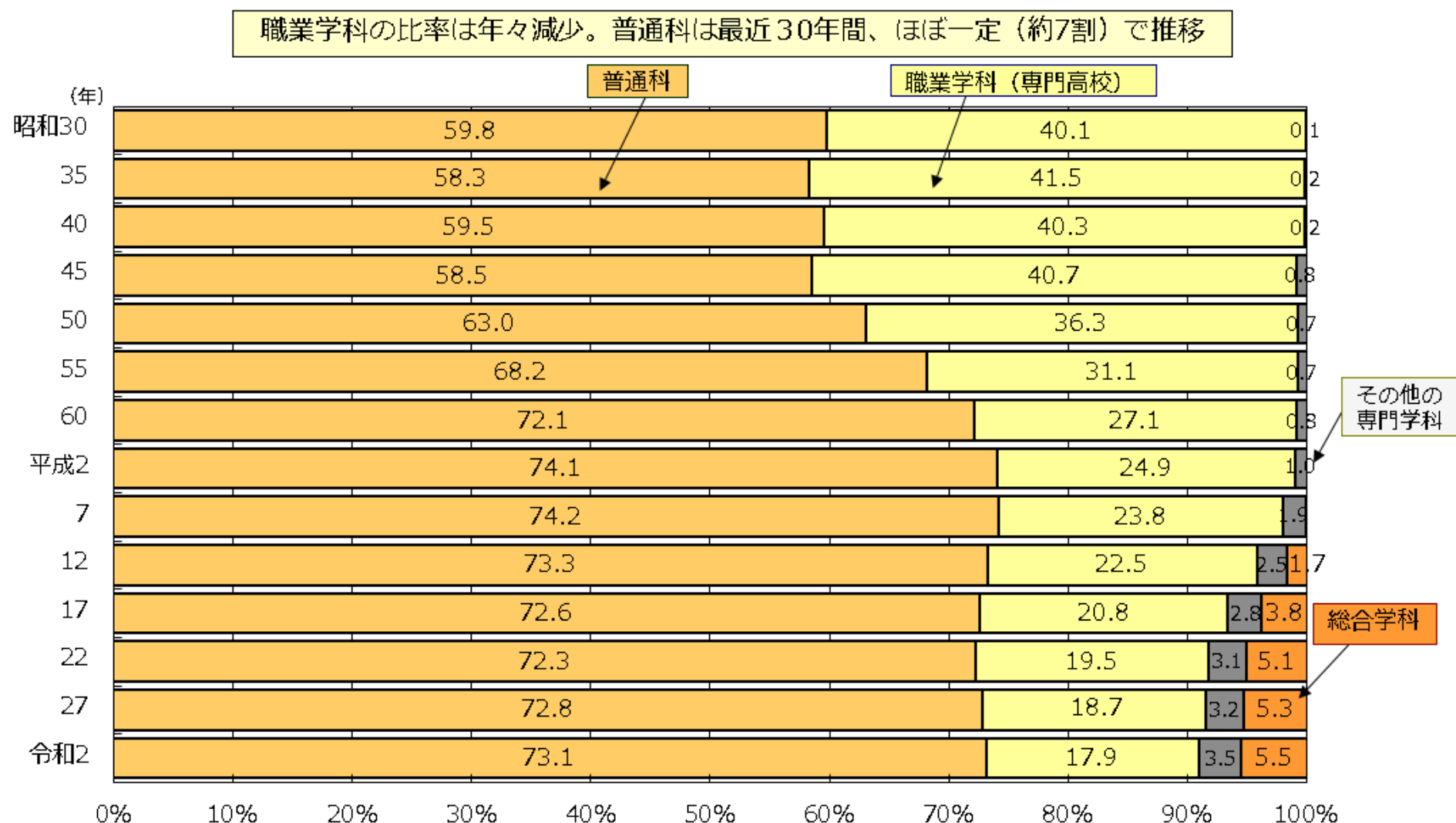
- ①科学の話題について学んでいる時は、たいてい楽しい
- ②科学についての本を読むのが好きだ
- ③科学について問題を解いているときは楽しい
- ④科学についての知識を得ることは楽しい
- ⑤科学について学ぶことに興味がある

※「探究を基にした理科の授業に関する生徒の認識指標」

生徒質問調査で「あなたが受けている学校の理科の授業で、次のようなことはどのくらいありますか」と尋ね、その肯定的な回答を基に「探究を基にした理科の授業に関する生徒の認識指標」を作成。「探究を基にした理科の授業に関する生徒の認識指標」は、その値が大きいほど、生徒は理科の授業が探究を基にした授業であると認識していることを意味する。

- ①生徒には自分の考えを発表する機会が与えられている、②生徒は実験室で実験を行う、③生徒は科学の問題について議論するよう求められる、④生徒は実験したことからどんな議論が得られたのか考えるよう求められる、⑤先生は理科で習った考え方が多くの異なる現象（例：物体の運動、似た性質を持つ物質など）に応用できることを教えてくれる、⑥実験の手順を生徒自身で考える、⑦調査についてクラスで議論する、⑧先生は科学の考えが実生活に密接に関わっていることを解説してくれる、⑨生徒はアイデアを調査で確かめるよう求められる

高等学校の生徒は普通科が7割

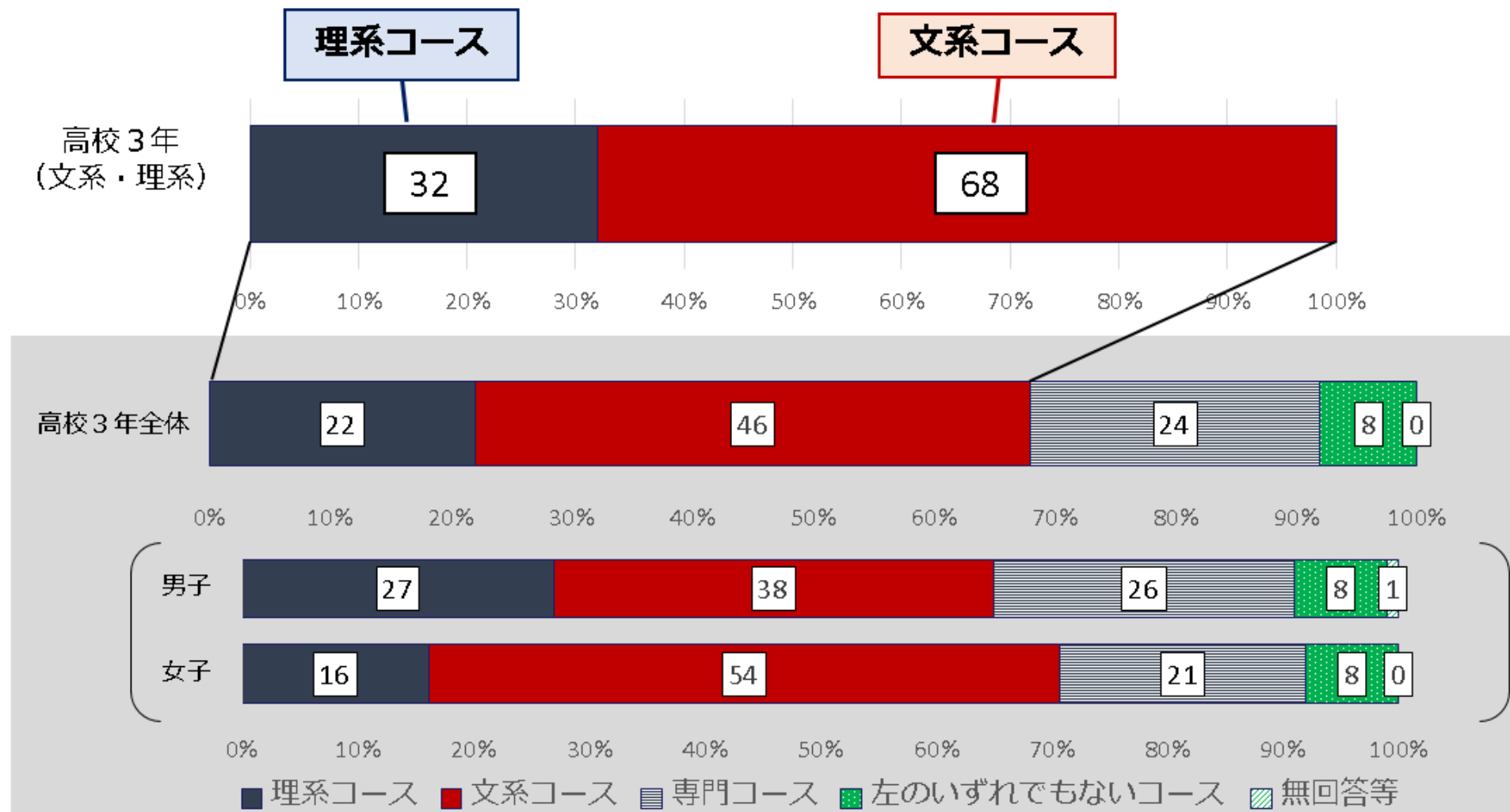


※総合学科は平成6年度より制度化。「その他の専門学科」には、理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係等の学科がある。

（出典）文部科学省「令和2年度学校基本統計（確定値）」

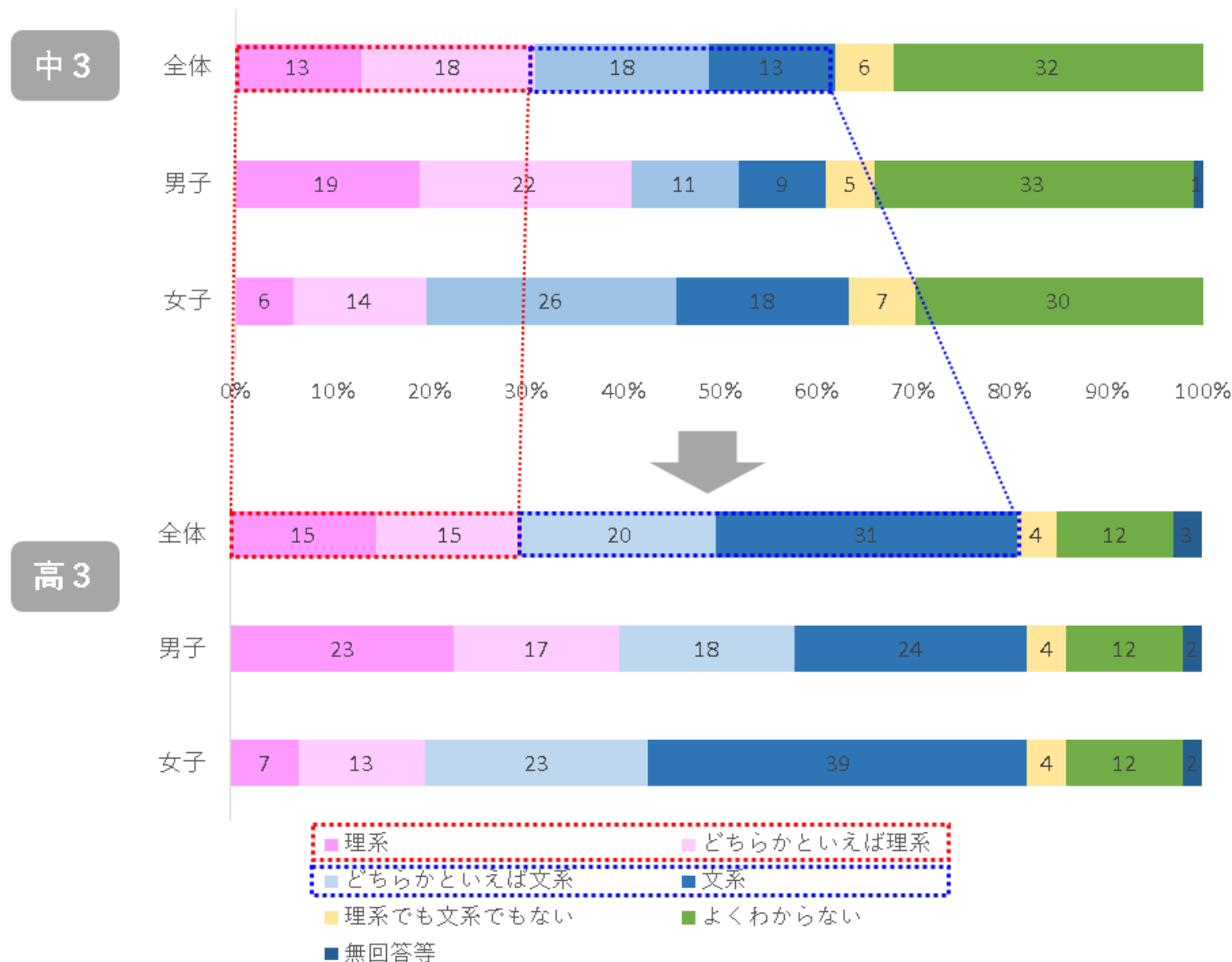
高校生は文系 7 割、理系 3 割

- 高校の3校に2校（66%）では、文系・理系のコース分けを実施している。
- 高校3年（文系・理系）のうち、理系コースで履修する生徒の割合は32%、文系コースで履修する生徒の割合は68%である。



(出典) 国立教育政策研究所「中学校・高等学校における理系選択に関する研究最終報告書」(2013年3月)

文理志向の変化：中学校→高校で理系志向の割合は増えず、文系志向は増



(出典) 国立教育政策研究所「中学校・高等学校における理系選択に関する研究最終報告書」2013年3月をもとに内閣府で作成

高等学校における科目の履修状況

数学

	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	数学活用
普通科等	92.5%	29.5%	95.2%	74.1%	2.1%
職業教育を主とする専門学科	65.6%	3.2%	52.4%	10.4%	3.5%
総合学科	60.9%	11.7%	84.6%	29.9%	6.1%
合計	83.4%	21.6%	83.8%	54.8%	2.7%

※数学Ⅰについては必履修科目であり全ての生徒が履修している

理科

	科学と人間生活	物理基礎	物理	化学基礎	化学	生物基礎	生物	地学基礎	地学	理科課題研究
普通科等	11.5%	65.6%	22.8%	93.4%	38.3%	94.3%	28.2%	34.6%	1.2%	0.7%
職業教育を主とする専門学科	82.2%	41.3%	1.7%	44.7%	2.1%	57.7%	2.5%	7.4%	0.0%	0.0%
総合学科	64.1%	28.2%	5.9%	66.7%	15.1%	80.0%	16.6%	22.5%	0.5%	0.7%
合計	33.1%	56.7%	16.2%	79.2%	27.5%	84.1%	20.9%	26.9%	0.8%	0.5%

情報

	社会と情報	情報の科学
普通科等	73.6%	26.1%
職業教育を主とする専門学科	59.7%	40.5%
総合学科	91.8%	9.3%
合計	71.5%	28.4%

(出典) 平成27年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査(平成25年度入学者抽出調査)